

**①自民は単独過半数割れで改選比9議席も減 改憲勢力3分の2を割り込む**

●…参院選の結果の基本点は、政権与党である自民党が9議席減らし、単独過半数を割り込んだことです。自民党単独では法案を通せない。選挙結果をもって、政権が「民意を得た」などという評価はありえません。 **中野晃一・上智大教授〈赤旗7/25〉**

●…参院選は、光と闇が交錯するツートーンの結果だが、均等割ではなく「光3対闇1」の図柄だ。光3要素は、①「改憲勢力2/3」未達②自民党議席の改選比9議席減③「1人区」での野党共闘10議席確保。共産党の手堅い善戦も、もう一つの光要素に加えていい。光側の3要素はなかなかの輝きを放っている。 **浜 矩子・同志社大大学院教授〈赤旗7/25〉**

●…自民、公明は〈直近の国政選挙である〉2017年衆院総選挙から得票数を減らしました。メディアも「自民、勝ったけど、比例2000万票割れ 大幅減」〈朝日7/22日付〉と報道。

**〈赤旗日曜版7/28〉**

●…自民・公明は改選議席で6議席減らしています。自民党幹部も「勝った実感がない」と言っています。 **鈴木哲夫・政治ジャーナリスト〈赤旗日曜版7/28〉**

●…「安倍首相はガックリきている。6月ごろの自民党調査では、そんなに議席を減らさず改憲勢力で2/3の維持も可能との結果が出ていたからだ」。自民党関係者が明かす。〈赤旗日曜版7/28〉

●…自民党議員の話。「痛かったのは1人区での敗北。秋田、岩手、山形、宮城の東北4県と滋賀と新潟。ことごとく接戦を負けた。当初から激戦と見込まれたが、衝撃的な結果だ」。〈赤旗7/26〉

●…自民党関係者の話。「『3分の2』のためにはこれらの激戦区は絶対に取りこぼしの許されないところだった」。だから必死のとりくみ。菅長官は各県に赴くと「まっすぐ創価学会に行く」〈地方紙記者〉と言われたように公明党・創価学会との協力を最大限稼働させようとした。首相も現地へ2度入り。政権と自民党の幹部を連日投入。徹底的なテコ入れ、組織の締め付け。新潟には、日本会議系ジャーナリストの桜井よし子も最終日に自民候補応援に入る。しかし「あそこまでやって勝てなかった。『3分の2』を失った。勝利感はない」と前出議員。〈赤旗7/26〉

●…新潟の自民党県議。「党本部はしゃかりきだったが、安倍さんは原発事故の問題でも人々に寄りそう人ではない。それで『憲法改正』と力んでも、保守の人たちには響かないし動かせない」。〈赤旗7/26〉

●…「3分の2」を取り損ねたことは、闇側の面々にとって明らかな痛手だ。闇将軍アホノミクスの大將は、隠れ改憲派の取り込みを図っている、そのこと自体が、彼らが追い詰められていることを物語っている。自民党の改選比9議席減も、実は結構なショックだろう。

**浜 矩子・同志社大大学院教授〈赤旗7/25〉**

●…選挙後の世論調査から。

改憲勢力2/3割れについて	朝日	よかった43%	よくなかった26%	
	共同	よかった29.8%	よくなかった12.2%	
安倍政権のもとでの改憲	朝日	反対46%		
	共同	反対56%	賛成32.2%	〈赤旗7/25〉

**②「市民+野党の共闘」が力発揮 選挙通じてさらに発展し進化・深化した**

●…野党統一候補が10選挙区で勝利したことは、うれしい驚きです。野党共闘の1人区の候補は、長野県を除いてほぼみんな新人候補、しかも統一地方選などもあり統一候補の擁立は遅れました。そ

んな状況でもこれだけの成果を出せたのは、3年前の参院選以来、政党を含めた地元の方たちの粘り強い頑張りの成果だと思います。 **中野晃一・上智大教授〈赤旗7/25〉**

●…改憲勢力=自民、公明、維新=の議席は合計157議席。自民は単独過半数を失ったうえ、憲法改定の国会発議に必要な3分の2の議席(164議席)を割りました。自民党の議席をそぎ落としたのは市民と野党の共闘です。 **〈赤旗日曜版7/28付〉**

●…自民党関係者。「野党統一候補は強かった。新しい政治風土ができつつある。もともと自民党が強かったところで、地殻変動が起きている」。「東北では共闘は当たり前になりつつある」(地方紙記者)。ある自民党議員。市民と野党の共闘は「共産党を軸に完全に機能している」。「共闘は16年の時より力を増している」。 **〈赤旗7/26〉**

●…立憲民主党の枝野代表が7月10日福井へ。共産党公認の野党統一・山田候補の演説会で小池書記局長とともに必勝訴え。生活・民主主義・憲法を破壊する安倍政治から国民を守るという共闘の大義を太く語り「統一候補勝利」を熱く訴え。こうした中で野党共闘が進化し深化した。 **〈赤旗7/26〉**

●…かつては「共産党が来ると票が減る」と言われたが、風潮が変化すると自民党も認める。自民党の議員の話。「野党共闘を見て一番感じることは、共産党に対するアレルギーがなくなっていることだ」。別の自民党関係者。「不思議なくらい共産党の『マイナスイメージ』の影響はなかった。滋賀県では、『無所属の嘉田由紀子』よりも『野党統一の嘉田由紀子』と押し出した方が有権者の反応がいい」。国民民主党・徳永久志滋賀県連代表。「この傾向は全国共通。ポスター、ビラに『野党統一候補』のシール貼付を中央選対が指示。『野党統一候補』と連呼も」。5野党・会派でも「野党統一候補」のシール作成。野党が結束して立ち向かう姿に共感する有権者の感覚が、野党間の結束を強める方向に作用した。 **〈赤旗7/26〉**

●…岩手選挙区・横沢高德野党統一候補。「多様性を認め合う野党共闘は素晴らしい。一つの党の視点だけでなく各党のいろんな視点を学んだ。メリットです。デメリットはありません。統一候補として皆さんと力を合わせて共通政策をぶれずに真っすぐに取り組んでいきたい」。横沢選対本部長・木戸口参院議員。「3年前、野党統一候補として私が勝利したときより、市民と野党の共闘が進化・深化した。野党間の信頼、候補者との信頼関係が大きい」。 **〈赤旗7/25〉**

●…岩手選挙区。最終日、横沢候補の打ち上げは、日本共産党岩手県委員会の事務所前(盛岡市内)。共産党比例カーの打ち上げに合流。「野党共闘の中で政策論戦でも組織戦でも重要な役割を果たした日本共産党への敬意を示す象徴的な場面だった」と、その場に参加した市民の声。 **〈赤旗7/25〉**

●…野党共闘は発展していく。立憲・枝野代表が21日・開票のさ中にテレビ東京で。「今回の5党・1会派の枠組みをしつかりと生かして、しっかりとこういう連立政権を組みますというような姿を私の責任で示していく」と発言。連立政権合意も視野に入れると。これを受けて日本共産党・志位和夫委員長は「大変重要な発言です。総選挙ということになると、政権の枠組みということがどうしても問われてきます。政権問題についての前向きな合意を得るための話し合いをぜひやっていきたい」。

**〈赤旗7/25〉**

●…総選挙へ協力強めよう。志位和夫委員長・枝野代表の会談成る。7/26国会内。参院選の成果として「32の1人区で5野党・1会派が協力してたたかい」「改憲勢力2/3を阻止」「自民の単独過半数も阻止」を確認。志位和夫委員長「6年前に野党が1人区で勝ったのは2つだったことを考えれば、躍進と言っていいのではないか」。この成果を土台に総選挙に向けて協力関係を強めていくことを確認した。さらに国会内でさまざまな問題で協力していくことを確認。参院副議長人事でも。 **〈赤旗7/27〉**

●…今回の参院選は、政治を変えるためには市民と野党の共闘しかないことを明確に示した。出口調査を見ると、勝利した野党統一候補は無党派層から大きな支持を受けています。基礎的な力では自民党になかなか及ばない野党が、大義のために結集することで劣勢を跳ね返した。その中心で頑張ってきた共産党が議席を増やせなかったことは残念。 **山口二郎・法政大教授〈赤旗日曜版7/28〉**

●…参院1人区の結果は、野党がバラバラでは変化は起きないが、まとまれば与党に勝てることを実証した。その結果、改憲勢力2/3を阻止した。この結果は安倍「一強」の政治状況に変化をもたらすと思います。 **武村正義・元滋賀県知事、元内閣官房長官〈赤旗日曜版7/28〉**

●…野党共闘で改憲勢力2/3を阻止したことは大きい。自公与党で2400万票に対し、立憲、共産、国民、社民、れいわ、で1900万票。しかも2017年衆院選の比例票と比べ自公は100万票以上減らしている。まだ野党の方が足りないけれど、もっと共闘が進めば押し返せるぐらいの差。だから私は、これからじゃないか、と考える。 **室井佑月・作家〈赤旗日曜版7/28〉**

### **③低い投票率について**

●…低投票率は深刻な問題です。安倍首相が野党の誹謗中傷に終始し、誰も望んでいない改憲を主張し具体的な政策の議論をまともにしなかったのは、見過ごせない問題です。

**中野晃一・上智大教授〈赤旗・日刊7/25〉**

●…低投票率は残念。いろいろな原因があると思いますが、やはり国民の前で争点を堂々と論じ合う、フェアに論じ合うということが少なかったのではないのでしょうか。野党の方は、年金、消費税、など堂々と論戦を挑んだと思うのですが、与党の方が論戦からずっと逃げて回った。その最たるものが通常国会後半での〈野党の〉予算委員会開催の要求を拒否したことです。〈それをしっかりやり〉争点を時間をとって明らかにし国民に信を問うという形になれば、もっと焦点が明瞭になったと思う。そういう論争から〈与党は〉逃げ回った。選挙戦に入っても、全体として誠実に議論するという市政が見られず、その場しのぎのゴマカシの数字を出し、批判されて言わなくなる。数字一つとっても事実と論理に基づいてちゃんと議論しようという姿勢が、党首討論でも見られなかった。私は与党側に猛省を促したい。国民の皆さんの中で、今度の選挙がどんなに大事か、争点がどこにあるのか、解決策はどこにあるのか、それがもっと明らかになれば、投票率はもっと上がったと思います。

**日本共産党・志位和夫委員長 〈赤旗7/24〉**